

# 週報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

## 2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め  
御旨にかなう道を備えてくださる。」  
(詩編 37 編 23 節)



### どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半  
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ~10 時  
祈 禱 会 各水曜日  
○昼の聖書研究祈禱会  
(第3・午後2時)  
●夕の祈禱会  
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65  
TEL. 042-742-1593  
FAX. 042-742-1393  
ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>  
郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計  
00290-4-80707

# 3211 2026 年 5 月 24 日

## 礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 1 主日・「聖霊降臨日」)

～ペンテコステ礼拝～

司 式 者 井 殿 準  
奏 楽 者 黒 田 理 佳

前 奏		奏 楽 者
招 詞	詩編 51 : 12 ~ 14	司 式 者
讚 美 歌	3 4 3 「聖霊よ、降りて」	一 同
聖 書	使徒言行録 2 : 1 ~ 11 (新 P. 214)	司 式 者
使徒信条	(93-4-A)	一 同
合 唱	「ふしぎなかぜが」(こどもさんびか94)	聖 歌 隊
祈 禱		司 式 者
讚 美 歌	3 4 2 「神の霊よ、今くだり」	一 同
説 教	「神に背を押されるとき」	司 式 者
祈 禱		”
讚 美 歌	3 4 6 「来たれ聖霊よ」	一 同
聖 餐 式		司 式 井 殿 牧 師
讚 美 歌	5 2 4 「われらみ名により」	一 同
献 金		”
主の祈り	(93-5-A)	”
頌 栄	2 7 「父・子・聖霊の」	”
祝 禱		司 式 者
答 唱	4 0 - 6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～		
報 告		司 式 者
讚 美 歌	9 1 「神の恵みゆたかに受け」	一 同

- ・当教会では讚美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨

「確かな希望に支えられて」

(ローマ 8 : 22 ~ 27)

冒頭の 22 節には「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています」と記されているが、世界では、今も本当に大勢の人々が呻きの声をあげている。我々自身も、様々な呻きの声をもらしていたかも知れない。

今も昔も、「被造物が呻く時代」であることに変わりはない。しかし、昔と今とは、一つ違うことがある。それは、主イエス・キリストが、すでにお生まれになった今や、我々には希望があるということだ。しかしながら、我々は、そのことをどれほど意識しているのだろうか？あるいは、「希望」という言葉を「聖書の言葉」と言い換えて、我々は今、どれほど聖書の言葉を輝かしいものとして意識しているのだろうか？

我々は、主にある希望がいかに輝かしいものであるのかを、普段はあまり意識していないのかも知れない。しかし、この希望は、たとえ今、どんなにひどく苦しんでいようとも、その苦しみが全く取るに足りないと思えるほどの希望なのだ(ロマ 8 : 18)。聖書の言葉とは、それほどに力のあるものなのである。

かつてフィリピンで出会った若者たちは、聖書を熱心に読んで、そこから力を得ていた。まさに命の危険にさらされているところで、聖書の言葉、そこに示されている希望は、彼らをいつも支え励まし、時に喜びに満たし、時に立ち上がらせ、時に奮い立たせていたのだ。そして、我々も、これまで何度も聖書の御言葉に励まされて来ていたのではなかったろうか？愛する者を天に見送った時、自らの情けなさ、罪深さを思い知らされた時、これまでどれほど力と勇気を与えられて来たことだろうか。

我々が呻きの声をあげずにはいられない時、そこにはいつも希望がある。どんなに酷く苦しんでいたとしても、それが全く取るに足りないと思えるほどの希望が我々には与えられている。世界は呻きの声に満ちているが、呻きつつでも、我々はこの時代、輝かしい希望に支えられながら、祈り合い、励まし合い、助け合って、共に生きて行こう(ロマ 8 : 19)。